

第4回長野圏域保健所共同設置等検討会議 議事要旨

1. 日時：平成29年8月25日（金）10:30～11:30
2. 場所：県庁議会棟404・405会議室
3. 出席者：別紙のとおり
4. 内容

◆あいさつ

座長 山本健康福祉部長

お忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。

本日は、これまでの検討状況についてご報告をさせていただく。また、今回の検討結果を踏まえ、今後、保健・医療・介護・福祉に関する保健所間等における連携は、機関等の共同設置いかに関わらず重要な課題・取り組みだと考えているため、こういった点についてもご議論いただければと思う。本日はよろしく願いしたい。

◆会議事項

- (1) 保健所連携に向けた検討状況について

(資料1に基づき県健康福祉部、長野市保健福祉部から説明)

【発言要旨】

須坂市

とても多い業務を整理・検討するのは大変であったと思う。
それぞれ課題を整理いただいているが、周辺の市の立場で考えると、共同設置をした場合、課題として出ている危機管理面での指揮命令系統の他に、精神保健の関係や犬猫の保護等の普段の業務に対して保健所からの技術的支援を受けられるかが心配される。市としては共同設置のメリットも分かるが、やはり県と長野市それぞれの保健所があることが、市町村として技術的な助言を受けやすい体制ではないかと考える。

高山村

先ほど長野市からご説明があったとおり、今現在、保健所業務と保健福祉政策業務を一体的に行い、効率的に運営している中で、今後共同していくことは、長野市にとってはあまりメリットがないという考えも分かる。

また、近隣の市町村、特に小さな村としては、県からの技術的支援を一番期待しているところであり、(共同設置において)それが十分期待できるかどうかを検討していただければよいかと思っている。

信濃町

県と長野市で長い時間をかけて検討されてきたことと思う。私どもとしては、県と長野市の支援を受けてきており、保健所が一体となって共同設置したときに、その支援をどれだけ受け

られるかが一つの判断となる。これから精神保健の方々が地元に戻ってこられ、町としても受入れ体制を考えていかなければいけない中で県からの支援を期待するところもある。

そのなかで、共同設置については、県と長野市が検討した上での結論であると思うので、こちらとしては意見を重視したい。

小川村

この検討事項については、平成27年度から多岐にわたり検討いただいた。県と長野市で検討いただき、今のところ難しいということである。村としても、県と長野市にいろいろな場面で応援いただいております、引き続き支援いただけるのであれば、どんな形であれ、県と長野市が決めたということで異論はない。

県健康福祉部長

長野市と県としては、これまでの検討状況を踏まえ、保健所の共同設置を行っていく上では課題が多数あり、現時点で実施することは難しいと考えているところだが、本日の検討を踏まえて、実施しないことについてご了解いただけるということによろしいか。

(異議なし)

それでは、続いて、今後の方向性についての議論に移らせていただく。

これまで、保健所の共同設置の可否について議論いただいたが、一方で、今後さらに進展する人口減少社会の中で、両保健所が連携して業務を行う必要性は高いと考えている。そのため、これまでの検討状況を踏まえ、現行の体制下においても出来ることから順次、保健所間の連携、また長野圏域内における保健・医療等に関する連携の強化を図っていきたいと考えている。

これらの件について説明させていただく。

◆会議事項

(2) 今後の方向性について

(資料2、3に基づき県健康福祉部から説明)

小布施町

この機会に検討されたことを活かしてますますの連携につなげていただきたい。また、私どもにもご支援をお願いしたい。

前回、保健所の共同設置は全国に例がなく、鳥取県か島根県が取り組んでいるという話を聞いた。その情報があれば、折角の機会なのでお聞きしたい。

健康福祉参事

共同設置については、島根県で平成30年4月に行う方向で進めていると伺っている。ただ、島根県の場合は、松江市が新た

に中核市になる中で進められており、本県の場合は既に18年間保健所をやってこられた長野市との連携ということで、状況が違っていると感じている。さらに、周辺の市町村の状況を見ると、島根県は、現在の松江保健所管内には、松江市と安来市があるだけであり、それに対して、長野圏域にはいくつかの市町村があり単純に比較はできない。私どもとしても、これまで島根県にお伺いして状況等をお聞きしてきたが、本県とは状況が違っていると感じている。

須坂市

こうした検討会を無駄にせず、連携できるものはさらに進めていくということに関して、とてもありがたく感じている。

市としてアンケートで意見を出させていただいたのは、資料2でいうと短期的な取組になると思うが、糖尿病性腎症重症化予防の関係とデータヘルスの関係。それぞれ地元の医師会と連携して進めているが、当市の場合には長野市の病院にかかっている方も多くいらっしゃるため、まず、地元の先生と話し合っただけで進めた中で、長野圏域の中でも連携できる仕組みをぜひ保健所の力を借りながらやっていければと思っている。

また、短期的な取組の中の各種啓発事業の共同実施について、最近、須高地区として、県と「いのちと暮らしの総合相談会」を自殺予防対策事業として実施したが、その際、須高地区だけでなく長野市の取組も合わせてチラシを配布しながら応募し、それぞれ須坂会場と長野会場に多くの方が相談に来られ、とても良い相談会になったと思っている。いろいろ共同でやることによって広く周知でき、県で検討することで取組も広がっていくかと思う。ひとつの例だが、今後も共同した取組を進めていければメリットは大きいと思っている。

県健康福祉部長

最初の重症化予防については、県は国民健康保険の保険者になるという大きい制度改正を控えているため、そうしたことも含めて、この機に我々も考えていければと思う。

自殺対策も県政の大きな課題と考えており、市町村においても地域の特性を活かしながら考えていける形となればと思っている。

信濃町

今後とも、県からの支援をいただく中で、長野市・県と共同でこうした講演会・講習会等をさせていただければありがたい。

県健康福祉部長

今後も連携等については、本日いただいたご意見を踏まえて検討していくこととしたい。

(終)